

伝統的里山管理の維持継続で多様な動植物生息環境を確保

8. 久保川イーハートープ【岩手県一関市】

範	困	岩手県の南端に位置する一関市を流れる久保川流域の集落	
所	在	岩手県一関市	
生	物	コナラ林(東日本)	
環	境	要素 二次林(), 草地、水田、畑、小川・水路、ため池、池沼・湿地、社寺林、人工林、その他(河畔林)	
自然条件	地	形 地形は東西の標高の高い山々から市域中部に向けて下っており、山裾は斜面樹林や緩やかな丘陵地の農村集落につながっている。また市域中央部は平地になっており、東北一の大河北上川に東西の山々を流れる川が流れ込んでいる。	
	植	生・生物等 伝統的な里山管理や農業形態が今なお継続されており、そのような環境に依存した里山の生物群集がよく残存している。他の地域に比べて侵略的外来種の影響が少ないため、在来の生物群集がよく保たれている。イヌブナと低地のブナとが近接したり、北限と思われるザイフリボクが存在するなど植物種が多い地域である。また、ため池が多いため淡水性の生物も多い。	
		 <p>撮影時期：2008年6月 雑木林と融合している棚田</p>	 <p>撮影時期：2008年11月 棚田上部にあるため池は、農薬や肥料が流入しないため、水生生物が多い</p>
社会条件	人口(市町村)	118,602人(農家率28.3%、副業的兼業農家が多い) 一関市のデータ(H22年)	
	土地	利用 市総面積の14.4%が田畑、62.4%が山林である。 一関市のデータ(H22年) 対象地区は、小河川、農地、山林が入り組んでおり、県内でみれば比較的農地の割合が高い地域である。	
	歴史・文化	一関市には萩荘のため池群、中世の稲作景観を継ぐ巖美町本寺地区の風景など農の歴史が残る。本寺地区の骨寺村荘園遺跡をはじめとする文化財や社寺、歴史的建築物等がある風景は、悠久の歴史を示す荘厳な景観となっている。	
法 指 定 、 行 政 に よ る 評 価 の 状 況	自然環境・景観 安全や国土保全に 関わる地域指定等	保安林 鳥獣特別保護地区	
	すぐれた自然、景 観、伝統文化など としての選定	朝日新聞社、(財)森林文化協会「にほんの里100選」に選出(H21) 日本ユネスコ協会連盟「第1回プロジェクト未来遺産」に登録(H21) 農林水産省「ため池百選」に選定(H22)	

久保川イーハトープ				
取組主体	タイプ	NPO企業等：NPO・企業・学校等地域の外からの参加者が中心となった取組		
	主な主体	名称	概要	
宗教法人知勝院 久保川イーハトープ自然再生研究所		知勝院の事業として取り組んできた生態系保全事業を、より科学的なものにするため、東京大学大学院保全生態学研究室と連携する研究所を設立		
経緯	<p>当地域の生物多様性に満ちた環境を後世に伝えるため、知勝院は1999年から樹木葬（墓石のかわりに地域の樹木を植える埋葬方法：当寺院が日本で初めて実施）墓地を中心に、久保川流域の自然環境整備を行ってきた。その後、東京大学大学院農学生命科学研究科保全生態学研究室の生態系調査が行われ、この地域の重要性が再認識され、その結果、「自然再生推進法」による「自然再生協議会」を立ち上げることとなった。</p> <p>そこで当院は、新たに久保川イーハトープ自然再生研究所を設立し、「久保川イーハトープ自然再生協議会」による事業の事業主体とすることにした。今後、県や市も含め協議会委員を募り、活動を展開する。</p>			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	久保川イーハトープと命名する久保川流域（羽根橋上流域）の自然環境を調査研究し、生物多様性に満ちた自然を保全再生することにより、地域の発展に寄与すること。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用（管理）の維持・活性化	該当なし		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 該当なし		
	環境教育や自然体験、エコツアーの場としての利用	自然観察会	水生生物観察会、ヤマツツジ、ニッコウキスゲ等の花木観察会随時	
		環境教育・学習活動	間伐林での林床植生学習、講師による講義	
		里地里山体験・環境保全	間伐、下草刈体験、セイタカアワダチソウの除去	
		農林業体験活動	ソバの種まき、収穫、水草による脱穀、手打ち	
		エコツアー	久保川でのリポートレッキング、棚田歩き、冬期にはカンジキ体験なども行う	
	その他			
野生動植物やその生息地の保全・管理	単一の種に限らず、間伐や林床管理、水田跡を利用した湿地再生などによる、里山生態系としての保全を目指した維持管理を行っている。また、近年になって顕著な増加が見られるセイタカアワダチソウやウシガエルなどの侵略的外来種の駆除作業にも積極的に取り組んでいる。（20年度以降ウシガエルの生息調査、駆除を実施）			
地域の良好な景観の保全・修復	セイタカアワダチソウ（毎年2～4トン抜き取り）やセイヨウタンポポといった外来植物の駆除。放棄されて荒廃した二次林の管理、サクラソウ群落地の保護。			
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	【文化財指定】	
		資源利用技術	間伐林を炭焼きし、久保川の水質改善に利用	
		その他		
炭焼きは市民団体「水環境ネット磐井川」が実施				
連携・協働	対象地域内に敷地をもつ寺院（知勝院）が中心となり、地元集落や久保川イーハトープ自然再生研究所、東京大学保全生態学研究室のメンバーなどとの協働により、地域内における生物の分布状況の把握や、外来種の駆除といった生物多様性を維持するための取組を進めている。また、同地域では知勝院が中心となり、自然再生推進法にもとづいた自然再生事業を平成21年に立ち上げた。環境教育学習活動では「NPO 法人北上川流域連携交流会」、炭焼きなどの活動では「水環境ネット磐井川」の協力を得ている。			

撮影時期:	撮影時期:
景観としての 利用・評価	「にほんの里 100 選」や「ため池百選」に選定された要因の溜池群と棚田、小河川の景観が素晴らしい。
取組の特徴	<p>全国初となる民間発意で自己資金による協議会を結成し、外来生物排除を中心とする生物多様性保全の取組を展開している。</p> <p>伝統的な里山管理や農業形態によって多様な環境が維持され、侵略的外来種の影響も他地域と比べて少ないため、そのような環境に依存した里山の生物群集がよく残存している。寺院所有地をコアエリアに、ため池の創出や二次林の管理といった自然再生に関わる取組が行われており、さらに、外来種の駆除や希少な水生生物の保全など、地域全体の生物多様性を守るための活動が展開されている。</p> <p>信者だけでなく市民、住民、大学が一体となって活動しており、寺院が主導、地元集落、大学、行政が後押しするという形で進めている。環境学習や間伐材の炭焼き・水質改善への活用などは、活動団体が協力して行われている。</p>

【参照資料】

一関市 HP (<http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/1,html>)

久保川イーハトープ自然再生研究所 HP (<http://www.jumokuso.or.jp/kubokawa/index.html>)

にほんの里 100 選